

なかよし学級 国語科学習指導案

指導者 2組 T1 切田 美香子 【公開授業Ⅰ】
T2 金野 奈緒美

1組 T1 酒井 浩文 【公開授業Ⅱ】
T2 金野 奈緒美

1 単元名「なかよしコーナーで伝えよう！」

小単元名「なかよしクッキング！」

2 単元について

(1) 児童について

これまでに、日常生活や学校生活を題材として、「したこと」と「気持ち」を書く学習をしてきた。低学年を中心としたグループでは、「様子を表す表現」を用いると詳しく伝えることを学習した。高学年を中心としたグループでは、「様子を表す表現」の他に「順序を表す言葉」を用いると、時間の経過が伝わることを学習した。また、作文に書く内容を決める観点には、「見たこと」「聞いたこと」「話したこと」「触ったこと」「思ったこと」「分かったこと」であるということも学習している。

運動会や水泳学習の作文では、「したこと」と「気持ち」を書くことはできたが、どのように走ったり泳いだりしたかという表現については悩むことが多く、全体的にまだ不十分である。また、自分一人で文章を考えることが難しい児童がほとんどで、指導者と話しながら書く内容を確認し文章にしている。児童の発達段階にもよるが、文章の書き方や観点の表現の仕方、語彙の広がりなどの面でそれぞれの課題を抱えている。

(2) 教材について

本単元の目標は、学習指導要領第1学年及び第2学年の「B 書くこと 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。」である。

校内の掲示板に「なかよしコーナー」を設け、自分の経験したことや思ったことを文章に表現してみんなに伝えるという書く教材である。さらに、「なかよしコーナー」の設置により相手意識をもたせ、みんなに知らせたいという意欲をもって取り組むことができる教材である。

書く内容は、主に自分自身や学校行事、日常生活のこととなる。身近なことを題材としていくため、様子を思い出したり内容を膨らませたりしやすいと考える。その他にも、手紙やレシピなども扱う予定である。

文章を書く学習を通して、文字の読み書きに慣れ親しみ、表現する力が身に付くと同様に、体験をもとにして語彙を増やすことにもつながっていく教材である。

(3) 指導について

本単元でつけたい力は、簡単な手紙や日記などを順序立てて書く力と生活に必要な語彙力である。年間を通して、なかよしコーナーでみんなに知らせるというゴールを設定し、意欲をも

たせて学習を進めていく。表現方法は児童の実態に合わせていくので、様々なものになると思われるが、どのようなものであっても表現できたことを認め励ましながら学習できるようにしていきたい。学習を進めるに当たっては、児童の発達段階に合わせてグループ分けをして進めていく。単位時間の達成目標も発達段階に合わせて設定する。

一つの題材を作文に書かせるにあたっては、習得したことを活用できるように次のように進めていきたい。

【作文の書き方】

- ア モデル文の構成の仕方や表現方法を学習する。
- イ モデル文を視写し、原稿用紙の使い方を知る。
- ウ 共通題材で習得した表現方法と構成を活用して書く。

ア～ウの流れを基本とし、一年間繰り返し指導していく。最終的には、自分が選んだ題材について習得した表現方法や構成を自由に用いながら書けるようにしていきたい。さらには、国語科以外の教科領域などでも、自分の考えや感想を書いて表現できるようになってほしい。

個々への支援については、次のように考えている。

【個々への支援】

- ア なかなか言葉が思い浮かばない児童の場合は、書きたい場面の様子を動作化させたり話をさせたりしながら文章表現と結び付ける。
- イ 文字を書くことに困難さがある場合は、指導者が聞き取った言葉をメモしてからその言葉をシールで貼らせたり、表情カードから気持ちを選ばせたりしながら学習に取り組ませる。
- ウ 作文に書く内容を思い出せるように、写真や映像を見せる。

交流活動については、次のような交流を考えている。

【交流活動】

- ア 友達の作文の中から学習した表現方法や工夫した表現方法を見つけ合う交流。
- イ 作文発表を聞いたり、読み合ったりしながらお互いの頑張りを認め合う交流。

繰り返し学習していく中で、児童の実態や興味関心を活かした交流を考えていきたい。

終末の振り返りは、自己肯定感や達成感をもてるように頑張ったことを認める時間としたい。

3 単元の目標

- (1) 書きたいことを見つけ、学習した方法で表現する。
- (2) 簡単な日記や手紙を順序立てて書くことができる。
- (3) 生活に身近な人や物の名前、動作や状態、感情を表す言葉を知り表現に用いる。

4 単元の指導計画と評価規準

題材名 「なかよしクッキング！」 全6時間

段階	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能	交流活動
第一 次 見 通 す ・ 習 得	(1) モデル文で目指すべきゴールと学習計画を知り，見直しをもつ。 (2) モデル文の構成と表現の工夫を理解する。 (3) 表現の仕方を練習する。	学習の見通しをもつ。	 正しく視写することができる。 新しい表現方法を用いて文を書く。	 「順序を表す言葉」や「会話文」の工夫に気付く。 「順序を表す言葉」や「会話文」の書き方を知る。	
第二 次 活 用	(4) 共通題材に関わる言葉集めをする。 (5) 共通題材で作文を書き，交流する。 【公開授業Ⅰ】 【公開授業Ⅱ】 (6) 清書する。	意欲的に書こうとする。 丁寧に書こうとする。	 「順序を表す言葉」や「会話文」を用いて文章に表現する。	題材に関わる言葉を考えて集める。	友達と相談しながら，言葉集めをする。 「順序を表す言葉」や「会話文」を友達の作文の中から探す。

<題材の内容計画>

5月 運動会	11月 なかよしショップ なかよしクッキング
6月 遊んだこと	12月 なかよし校外学習
7月 水泳学習 宿泊体験学習 修学旅行	1月 冬休みの思い出
8月 夏休みの思い出	2月 雪遊び，スキー教室
9月 西ブロック交流会	3月 感謝の手紙
10月 学習発表会	
※ 楽しい体験があったら，随時書く。	

5-1 本時の指導（5/6時間）

【なかよし2組公開授業Ⅰ】

(1) 本時の目標と評価規準

<全体の目標> 写真を見て、調理の様子を順序良く書くことができる。

<個人の目標・評価規準・支援>

児童	本時の目標	児童の実態	支援・留意点	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> 「したこと」「気持ち」を単語で話し、言葉を平仮名で書いたりシールで貼ったりして表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分がしたことや思っていることを単語で話す。 平仮名を一文字ずつ読む学習と二文字から三文字の単語を読む学習をしている。 なぞり書きもできるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 次にすべきことを知らせる声掛けをする。 平仮名シールと表情カードを用意する。 話した言葉を文字に直して、手本を書く。 平仮名表を見ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 手本を見ながら、話した言葉を平仮名とシールで表現することができる。 自分の気持ちを表情カードから選ぶことができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」「次に」「様子を表す表現」を使って、「したこと」「気持ち」を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のしたことや気持ちを話すことができる。 平仮名をすらすらと読むことができる。 平仮名表を見ながら文を書くことができる。自分のしたことや気持ちを主体的に書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きたいことを指導者に話したり動作化して伝えたりするように促す。書きたい気持ちが強いので、なるべく自由に書かせる。 平仮名表や片仮名表を手元で見ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」「次に」や「様子を表す表現」を使いながら、二つの事柄について自分なりの言葉で書くことができる。100字程度で書くことができる。
C	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」「次に」「様子を表す表現」を指導者との交流を通して考え、「したこと」「気持ち」を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 会話としては成立しにくいですが、一方的に自分のことを話すことができる。 平仮名と片仮名の読み書きができる。 その時の様子を思い出すような会話をすると、様子や気持ちを言葉や文字で表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きたいことを指導者に話したり動作化して伝えたりするように促す。うまく話せない時は、観点を絞って質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」「次に」を使い、「様子を表す表現」を指導者と一緒に考えながら、二つの事柄について書くことができる。100字程度で書くことができる。

D	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」「次に」「様子を表す表現」を指導者との交流を通して考え、「したこと」「気持ち」を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話そうとするが言葉がなかなかでてこない。 平仮名と片仮名の読み書きが大体できる。 自分だけで様子を表す表現を考えることは難しいが、動作化させると言葉を思いつくことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きたいことを指導者に話したり動作化して伝えたりするように促す。 書き間違いがあるので、時々確認するように声を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」「次に」を使い、「様子を表す表現」を指導者と一緒に考えながら、二つの事柄について書くことができる。100字程度で書くことができる。
E	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」「次に」「様子を表す表現」を指導者との交流を通して考え、「したこと」「気持ち」を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話すことはできるが、分からないと黙ってしまう。 平仮名と片仮名の読み書きができる。習った漢字を使おうとする。 どう書いたらいいのか分からなくなると固まってしまうが、会話を通して思い浮かぶ時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きたいことを指導者に話したり動作化して伝えたりするように促す。 観点を絞って質問する。答えたことを褒め、その言葉を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」「次に」を使い、「様子を表す表現」を指導者と一緒に考えながら、二つの事柄について書くことができる。80字程度で書くことができる。
F	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」「次に」「様子を表す表現」を考え、「したこと」「気持ち」を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを話すことができる。 平仮名や片仮名の読み書きができる。2年生程度の漢字を読み書きできる。 その時の様子を思い出すような会話をすると、様子や気持ちを言葉や文字で表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きたいことを指導者に話すように促す。話せない時は観点を絞って質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」「次に」「様子を表す表現」を使いながら、二つの事柄について書くことができる。120字程度で書くことができる。

(2) 本時の展開

段階	学 習 活 動 (○主な発問, ◇期待する児童の反応)	指導上の留意点(・)評価(□) 交流活動(☆)
導入 5分	<p>① <A～F児> 本時の目標と流れをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">料理の様子を順序よく書こう。</div> <p>ア 授業の流れをつかむ。 イ 作文の構成と今日の重点をつかむ。 ウ 前時に集めた言葉について思い出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成「1 知らせたいこと。」 「2 はじめに作ったもの。」 「3 次に作ったもの。」 「4 どんな気持ち。」 「2, 3, 4について書くこと」を確認する。 ・ 前時に集めた言葉を黒板に掲示し, 言葉や漢字で悩まないようにする。
展開 35分	<p>② <B～F児> 書こうとしている調理活動について発表し, 今日はどんな作文を書くといいかを知る。</p> <p><A児> 選んだ写真を確認する。</p> <p>③ <B～F児> 写真を見ながら, 作文を書く。 ア 「はじめに作ったもの。」「次に作ったもの。」を, 写真を見ながら順序良く書く。次に, 「気持ち」を書く。</p> <p>イ 読む練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が話した内容を聞き, 今日どのような作文が書けるとよいか一人一人のゴールを簡単に確認する。 ・ 「順序を表す言葉」の他に「様子や動きを表す言葉」を書けばよいことを, モデル文を見ながら確認する。 ・ T1は主にBCDの支援, T2は主にEFの支援, 支援員は主にAの支援に当たる。 ・ 前時に, 「1 知らせたいこと」を書かせるとともに, 書きたい場面の写真を決めさせておく。 ・ 動作化できるように調理用具も用意しておく。 ・ 自分で様子を表す表現を考えた児童を褒め, 考えることに意欲をもたせる。 ・ 自分で場面分けができなかったり, 言葉が思いつかなかったりしたら, 指導者から場面の分け方や言葉を提案する。 ・ 早く終わって, 清書したい児童には数種類の原稿用紙から好きな原稿用紙を選ばせて清書させていく。 □ 順序を表す言葉を用いて, 調理している様子を書くことができる。

	<p><A児></p> <p>ア 写真を見て、「何をした」「気持ち」を話す。</p> <p>イ 話した言葉を書く。</p> <p>ウ 指導者がその言葉を文に直し、話す練習をする。</p> <p>エ なかよしコーナーの看板の文字を書く。</p> <p>オ 書いた文字を並べて画用紙に貼る。</p> <p>④ <A～F児> 書いた作文を発表して交流する。</p> <p>ア 自分の作文を読む。</p> <p>イ 順序を表す言葉が使われているか、どんな様子かを考えながら聴く。</p>	<p><A児への支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書いたり、話したりできるように手本を示す。書けない平仮名はシールで貼る。 ・ 発表の練習に取り組むように促す。一人では難しいようなら一緒に話すようにする。 ・ 「なかよしコーナー」の文字を画用紙に書き、画用紙に貼る活動を一緒に行う。 <p>□ 写真について指導者と話し、「したこと」「気持ち」を平仮名やシールで表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の発表後、作文の内容をクイズにすることで集中して聞けるようにする。工夫した表現に目を向けられるようにクイズを出す。 ・ 楽しく発表できるように場の設定を工夫する。 ・ A児は指導者と一緒に発表する。 <p>☆ 発表を聞き、感想を伝え合う。</p>
<p>終末 5分</p>	<p>⑤ <A～F児> 学習を振り返り、頑張ったことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ マークや文などで自分の学習を振り返り、達成感をもてるようにする。

(3) 板書計画

りょうりのようすき じゅんじょくかじつ。

① 作文をかく②はっぴょう③ふりかえり

月 日 曜日

知らせたいこと

☆ はじめに

あつめた ことば

☆ つぎに

あつめた ことば

どうおもったか

5-2 本時の指導

【なかよし1組公開授業Ⅱ】

(1) 目標と評価規準

<全体の目標>

調理の写真を見て，調理の様子を順序よく会話文を入れて書くことができる。

<個人の目標・評価規準・支援>

児童	本時の目標	児童の実態	支援・留意点	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> 「様子を表す表現」や「会話文」を使って、「したこと」「気持ち」を工夫して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 質問されたことに対して適切に答えることは難しい。ただ，自分のことを話すことはできる。 当該学年の教科書を読むことができる。 文型に当てはめると悩まずに書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きたいことについて一つ一つ確認しながら，作文全体の構成を一緒に考えるように進める。 書き進める速さが遅いので，特にも配慮して進めさせる 	<ul style="list-style-type: none"> 順序や様子を表す表現を適切に使いながら，会話文を上手に使うことができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> 「様子を表す表現」や「会話文」を使って，指導者と交流しながら「したこと」「気持ち」を工夫して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のしたことを話すことができる。 当該学年の教科書を読むことができる。 自分なりの表現で経験したことを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きたいことに迷っていたら，すぐに適切な助言して書き進められるように促す。 集中できる時間が限られているので，活動が止まらないよう，支援カードを準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 順序や様子を表す表現を考えながら，会話文を入れて自分なりの表現で書くことができる。
C	<ul style="list-style-type: none"> 「様子を表す表現」や「会話文」を使って，指導者と交流しながら，「したこと」「気持ち」を工夫して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを話そうとするが，言葉がなかなか出てこない時がある。 当該学年の教科書を読むことができる。 思っていることを文章に表現することが難しいが，楽しく書こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きたいことを指導者に話すように促す。様子を表す言葉を選ぶ際には声を掛け，確かめながら進める。 字を丁寧に書くよう声掛けする。 	<ul style="list-style-type: none"> 順序や様子を表す表現を，指導者と一緒に考えながら会話文を入れて書くことができる。

D	<ul style="list-style-type: none"> 「様子を表す表現」や「会話文」を使って、「したこと」「気持ち」を工夫して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことを話すことができる。 当該学年の教科書を読むことができる。 経験したことを作文できる。ただ、順序立てて表現することは苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きたいことを確認しながら、短い文で書くように声掛けをする。 「会話文」で書きたいことを確認する。 文のつながりを意識させながら活動を進めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 順序や様子を表す表現を考えながら、会話文を入れて短い文で書くことができる。
E	<ul style="list-style-type: none"> 「様子を表す表現」や「会話文」を上手に使う、「したこと」「気持ち」を詳しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことを上手に話すことができる。 当該学年の教科書を読むことはできるが、漢字を覚えることが難しい。 文章を書くことに苦手意識がある。「したこと」「気持ち」を簡単な文章で書くことはできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きたいことを話してから書かせるようにする。 分からない漢字があると活動がストップするので、聞かれたら間をおかず助言する。 会話文を入れるところや書き方をチェックして進めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 順序や様子を表す表現を考えながら、指導者と一緒に確かめながら、会話文を入れて作文を書くことができる。
F	<ul style="list-style-type: none"> 「様子を表す表現」や「会話文」を上手に使う、「したこと」「気持ち」を詳しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 声は小さいが、経験したことを話すことができる。 当該学年の教科書を読むことができる。 経験したことを思ったことを、自分で考えて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 合う言葉が見つからないときにはカードから選ぶように声を掛ける。 学習の様子を見て、内容が膨らみそうな様子ならば、周りの友達の様子も書くように声を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 順序や様子を表す表現を考えながら、会話文を入れて上手に作文を書くことができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動 (○主な発問, ◇期待する児童の反応)	指導上の留意点(・) 評価(□) 交流活動(☆)
導入 5分	① 本時の流れと目標をつかむ。 会話文を入れてお料理したことを書こう ア 構成と会話文を入れて書くことを確認する。 イ 前時の言葉集めの準備を確認する。 ウ お知らせ文(書き出し文)の続きから書き始めることの確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「知らせたいこと」「はじめに」「次に」「思ったこと」の構成であることと、「会話文を一つは入れること」を確認する。 ・ 集めた言葉を掲示して、書き進める際に困ったら、すぐに見ることができるようにする。
展開 35分	② 作文を書く。 ア 順序を表す「はじめに」「次に」を使いながら、調理の様子を書き進める。 イ 「様子」や「気持ち」の表現を入れながら「会話文」の入れる場所を考えながら書く。 <B児> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に学習活動が停滞しがちなので、よりどころとなる言葉や話し掛ける内容を準備して活動を見守る。 <C児> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先をあまり考えずに、思いついたことを書き進めようとするので、「会話文」の場所や字を丁寧に書くことに留意して支援をしていく。 <A児> <ul style="list-style-type: none"> ・ 字を丁寧に書こうとするあまり、学習の時間を考えずにゆっくり作業する。丁寧に書こうとすることは認めながらも、常に進行状況をチェックしながら、時間内の完成ができるよう支援していく。 ③ 書いた作文を読み合って交流する。 ア グループごとに発表し合い代表を決める。(A. C. F)と(B. D. E) イ 代表が発表する。なぜ代表に選んだのかも簡単に紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ T1は主にB児の支援, T2は主にC児の支援をし、グループに別れた際も、そのグループを担当する。 ・ 何を書くのかを、モデル文を見ながら確認する。 ・ 作文授業だけで使うことができる鉛筆を用意し意欲をもたせる。 ・ 200字程度の原稿用紙を用意し、少なくともこの一枚を全部埋めるつもりで進めさせる。 ・ 分からない漢字や言葉を児童同士で聞き合えるように促していく。 □ 調理の写真を見て、調理している様子を順序良く会話文を入れてくわしく書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ T1は女子+男子Bの3人を, T2は男子グループ3人を担当する。 ・ 各グループともに6年生が中心になってグループでの活動の際に、進行役を務めるので、進行がスムーズいかない場合は, T1, T2ともに担当グループで助言を行う。 ・ 作業時間は進行状況で変わるが保障する。 ☆ グループごとに読み合い、自分たちなりによく分かると思う表現を探す。代表に選んだ作文のどの表現や文がいいのかを話してから、代表に発表させる。

終末 5分	④ 学習を振り返り，本時の学習を反省し， 特にもがんばった点を見つけ記述する。 ⑤ 次の時間の清書作業を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の本時の学習の頑張りを表情マーク や文で表現する。 ・ 短くとも記述部分の反省も書くよう声掛 けする。
----------	--	--

(3) 板書計画

	⑤ ふりかえり	④ 発表 みんなにしようかいしてみよう！	③ 交流 いいところを見つけられたかな？	② 作文 集めた言葉 集めた言葉	① 確かめ 会話文を入れて書く 順序よくまとめて書く 様子や気持ちに分かるように書く 会話文を入れて書く	会話文を入れてお料理したことを書こう
--	---------	-------------------------	-------------------------	------------------------	--	--------------------